

## テーマは「薬害」

ねらい：厚生労働省パンフレット「薬害を学ぼう」を起点に薬害とは何か、どんな薬害があるのかについて理解を深め、議論を交わしながら薬害に対してどう向き合うのか考えられるようにする

<参考>ア 現代経済の仕組みと特質（学習指導要領より）

「消費者に関する問題」（内容の取扱い）については、家計、企業、政府間の情報格差という情報の非対称性の観点から消費者保護の重要性を扱うだけでなく、消費者の自立支援の観点から指導することに留意することが大切である。また、例えば、製品事故、薬害問題などを扱い、行政や企業の責任にも触れるようにする。

日時：2023年1月18日（水）第5校時（13：30～14：20）

クラス：3年3組（38名 HR棟2階）

教材：『薬害を学ぼう』（発行：厚生労働省、2022年6月改訂版）  
改訂版 政治・経済（数研出版2017年検定済、22年1月発行）＝教科書  
最新図説 政経（浜島書店2022年2月5日印刷・発行）＝資料集

内容：①限：「薬害を学ぼう」を読み、薬害・被害者の声・原因を知る

教科書・資料集で消費者保護の単元を確認する。資料集P262の②食品被害と薬害を見て、過去の薬害4例（サリドマイド事件、スモン事件、薬害エイズ事件、薬害C型肝炎＝表記通り）について概要を確認する。

「薬害を学ぼう」を配布し、CDを視る（冒頭と体験者の声の一部）。その後、パンフレットを読み、気づいたこと、副作用との違いを確かめる。

グループごとに薬害を一つ選び、その内容について調べまとめる

本時＝②限：薬害の実態について深め、その特徴を探り、薬害について向き合い方を考える \*1の前に導入及びオリエンテーションあり

1. 新しいグループに旧グループでまとめた各薬害の実態を持ち寄って説明する(10分)
2. 説明終了後、薬害の原因や広がりについて共通項を探る(15分)
3. 探った共通項をまとめて提示する(5分)
4. どう向き合えばいいのか、グループごとに話し合い、全体に対して理由を発表する(15分)

力点：グループの活動を通して学びあい、薬害についての理解を深める  
薬害の名称や症状よりも、その背景や“害”の原因に注目する  
薬害への学びからよりよい生き方につながるようにする

方策：グループ活動のまとめはジャムボードを用い、グループ内の共通理解を促すとともに、他のグループの情報も参考にして、よりよい発想やまとめができるようにする